

めざす児童生徒像

- なりたい姿に向かってチャレンジできる子
- 自分や友達のがんばりや成長を見つけたり、応援したりできる子
- 自分で考えてすすんで行動(学習)できる子
- 他者と話し合い、問題を解決したり、新しい考えを生み出したりできる子

※児童生徒結果-教員結果-保護者結果

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)			※差	達成状況の分析	改善策
				教員	児童生徒	保護者			
(学校で設定)	自己肯定感の向上	①②③の平均が 中間・・・85%以上 期末・・・90%以上	児童が「学校が楽しい」と感じている。	100	84.1	95.8	-15.9	教員や保護者は、9割以上が「児童は学校が楽しいと感じている。児童は肯定的な姿勢だ」ととらえているが、児童にとっては、8割程度にとどまっている結果となった。学級目標へは近づけていると感じている児童が多くなること分かった。	・生徒指導の4つの視点を活用し、取り組みの重点を決める。毎月のPDCAの会で、全員で振り返りを行い、効果的な取組をすすめる。 ・小規模校のため、「学校が楽しくない」と訴える児童の把握がしやすい利点を生かし、「楽しくない」と答えた児童の理解を深め、一人でも多くの児童が「学校が楽しい」と感じられるように児童の困り感に寄り添った指導を行う。
			児童が「学級目標達成に近づけた」と感じて	80	83.2		3.2		
			教員、保護者は、定期的に児童(一人一人)の成長やよさを伝えたり、児童に肯定的なメタ認知ができる場を設定したりしている。	100	81.4	97.9	-18.6		
			集計						

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)	※差	達成状況の分析	改善策	
重点項目	業務の改善	①②の平均が 中間・・・85%以上 期末・・・90%以上	① 80時間越えゼロに向け、時間外勤務の削減に取り組んでいる。	80			超過勤務が80時間を超えた職員はいなかった。4~6月の超過勤務時間平均は45時間であり、昨年度の50時間より減少した。	担任業務支援、教材研究の時間確保のため、日課や支援員の配置等の工夫、校務の平準化等を推進し、やりがいのある職場作りを推進する。
			② 学校組織の中で自分の役割が明確であり、創意工夫しながら取り組むことができている。	100				

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)	※差	達成状況の分析	改善策	
重点項目	働き方や業務の改善	①②の平均が 中間・・・85%以上 期末・・・90%以上	① 研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、単元(授業)構想シートなどの具体的な取組を共通実践している。	80			①②の平均は84.45%であり、目標指標を若干下回った。研究授業が2学期に多く予定されているので、①単元構想シートの作成が進まなかったためであると考えられる。	2学期の研究授業に向けて、単元構想シートの作成を進め、有効に活用できるように取組を進めている。
			② 授業研究では、教職員一人一人が子供の姿を語ったり、改善案を示したりするなど主体的に取り組んでいる。	88.9				
			集計					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)	※差	達成状況の分析	改善策	
重点項目	指導力の向上	①~④の平均が 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	① 児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。	90	90.4	0.4	①~④の平均が教員は87.5%、児童は83.9%であり、いずれも目標指標に到達していた。ただし、教員・児童ともに③「自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わらないよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。」の数値が低いことがわかった。工夫して発表している姿がどのような姿なのか、イメージがつきにくかったためであると考えられる。	②については、「車陣つ話し合いプロフェッショナルロード」を使って発表することができるように、取組を進めていく。「車陣つ授業大作戦」を活用し、各学年で身につけたいワードを児童とともに重点化して、自分の考えを発表する際に使えるようにしていく。また、取組の様子や成果を可視化していく。
			② 児童生徒は、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。	90	85.2	-4.8		
			③ 児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。	80	72.2	-7.8		
			④ 児童生徒は、話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えを伝えている。	90	87.8	-2.2		
			⑤ 児童生徒は、振り返る活動の中で、授業の目標に沿って自分の学びの変容を実感したり、学びに対する達成感を得られたりしている。	90	88.7	-1.3		
			⑥ 児童生徒は、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために使用している。	90	93.9	3.9		
			集計					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)	※差	達成状況の分析	改善策	
重点項目	学力の向上	①②③④の平均が 中間・・・85%以上 年度末・・・90%以上	① 指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。	90.0			・アンケートの結果は、目標指標を上回った。年度当初、カリキュラムマップを確認し修正しながら、教科横断的な視点からも学力向上を図ることができている。 ・学期初めに、昨年度末に実施した校内学力調査の結果をもとに、担当学年の課題を見出し、学級経営案に記した。 ・帯タイムを中心とした学力向上の取組については、月例の「PDCAの会」で実施状況や課題を把握・共有し、システムとして有効に機能できるよう、その都度修正しながら進めていく。 ・日課表の見直し、研修会の設定、教材研究の時間確保等の学力向上につながる取組についても主任会等で定期的に検証していく。	・夏季休業中には今年度の学力調査結果をもとに分析を行い、2学期以降の重要単元と指導の工夫を考える校内研修会を設ける。全職員で共通理解をはかりながら学力向上の取組を進めていく。 ・カリキュラムマップを十分に活用し、教科横断的な視点からも学力向上を図ることができている。 ・学力調査分析で検討した手立てを、カリキュラムマップにつなげ、学力調査から見える課題を克服するための具体的な指導方法を提案し、実践していく。 ・帯タイムを中心とした学力向上の取組については、月例の「PDCAの会」で実施状況や課題を把握・共有し、システムとして有効に機能できるよう、その都度修正しながら進めていく。 ・日課表の見直し、研修会の設定、教材研究の時間確保等の学力向上につながる取組についても主任会等で定期的に検証していく。
			② 児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、詳細して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。	100.0				
			③ 全職員が学力向上の取組の目的や意義を理解し、課題の解決を期待できると納得して共通実践に取り組んでいる。	100.0				
			④ 校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。(小中連携)	100.0				
			集計					

目標	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目	数値・アンケート結果 (%)	※差	達成状況の分析	改善策	
重点項目	家庭学習	①3年生以上の「家で家を立てて勉強している」 ②「家庭学習で学習用端末を活用する」 中間・・・80%以上 年度末・・・90%以上	① 家庭学習の取組として、学習方法や課題の課し方を校内で共通理解を図っている。	100	77.9	-22.1	・児童アンケートにおいて、①計画的に家庭学習に取り組んでいると回答した割合は、77.9%と低い結果となった。 ②学習用端末の家庭学習での活用状況は、高学年の数値で86%であった。 ・教師と児童の意識に、差が見られた。	・計画的な家庭学習がどういふものを学年に応じて理解させ適切に計画できるように支援する。 ・「家庭学習がんばり週間」の継続と学年に応じた取組の充実に提案し実施していく。 ・学習用端末の家庭学習での活用が定着するように、習慣化に繋がる課題や授業に活かせる課題を工夫する。
			② 学習用端末を活用した家庭学習に取り組めるよう課題を工夫している。	90	73.5	-16.5		
			集計					